

第2回棚田の写真コンテスト



審査員は棚田オーナー

10月27日、第二農場多目的集会施設で兵庫畑の棚田をテーマにした写真コンテストの表彰式が行われました。

昨年、棚田オーナー制度10周年をむかえ、また「栃木ふるさと田園風景百選」にも選ばれたのを記念し、兵庫畑の棚田をテーマにした写真コンテストを開催しました。兵庫畑棚田を守る会が主催し、エマタカメラ店、市民力かわら版が協催で行い、今年で第2回目となります。

写真の審査は、10月5日の収穫祭で棚田オーナーの方を中心に34人が、良いと思う作品に投票し、上位得点の作品が選ばれ

ました。
棚田を少しでも知ってもらいたい

表彰式では、兵庫畑棚田を守る会の野滝会長より入賞者に賞状と副賞が手渡されました。副賞には、棚田を守る会より「棚田の清流米」とエマタカメラ店からフレームが送られました。

棚田を守る会の野滝会長は「矢板の自然の良いところ、棚田を少しでも多くの人に知ってもらえれば嬉しいです。来年も継続するので、多くの作品が応募されるように」

大賞作品

「みんな笑顔で」



表彰式もなごやかに…



とコンテスト開催の思いを述べられました。

なお、入賞作品は山の駅たかはら（来年3月末まで）その後郷土資料館で展示します。（T・M）

入賞者

大賞 「みんな笑顔で」
齋藤 寛 氏

特選 「田植えの候」
五十嵐 毅 氏

「静かな夜明け」
大森 信重 氏

準特選

「棚田の夜明け」
半田 信一 氏

「棚田に映えるこいのぼり」
伴 敏子 氏

このほか、入選が3点、佳作が4点表彰されました。

交流を深めた福祉まつり

福祉まつりとは

11月3日の文化の日、第36回矢板市福祉まつりが開催されました。

この福祉まつりは、子どもからお年寄りまでがみんなでお空の下で楽しみ、交流を深め、また、障がい者団体や福祉活動に携わるボランティア団体を広く知っていただき、ふれあいを通じて福祉について理解を深めたいことを目的としています。

秋晴れの中、会場はたくさんの方で賑わっていました！



会場となる市役所駐車場には、各ボランティア団体ブースが設置され、団体の活動の様子をパネル展示、バザー、銀のカラー、おでん、ポップコーン、非常食炊き出し配布、子どもたちとの簡単工作、手話クイズ、クッキング戦士クックマンなど、団体参加者と来場者がともに楽しみ交流を深めていました。

以前は、「福祉まつり」として開催していました。

「つつじの郷やいた、ともなりの祭り」と合同開催となっていたから、福祉まつりの意義は薄れがちになりましたが、多くの人が福祉についての理解を深めてもらおうと、矢板市社会福祉協議会が中心となって、毎年工夫を凝らして開催しています。

福祉まつりの参加者に突撃インタビュー

◆レンゲグループ

（代表 中村有子さん）

矢板の名所八方ヶ原に少しでも多くの観光客に来ていただき、景観を楽しんでもらえるよう、山の駅から八方ヶ原を中心に、トイレの清掃や道路周辺のゴミ拾いなどの美化活動を行っています。

シーズン中の5月～6月に4～5回おもてなしの気持ちで活動しています。活動時間は、午前10時から12時です。参加できる方募集しています。連絡先は、(430-33332)中村まで。

◆手話講習会

（代表 河井正志さん）



矢板市社会福祉協議会の事業として、約30年前からやっています。初級と中級クラスに分かれ、現在は約20人の方が受講しています。教室は矢板公民館で毎週火曜日午後7時30分から9時までです。生徒は毎年4月に募集しています。

教室のほかに、年に1回小学校の生徒さんに、ミニ講習会を開いています。また、シルバー大学校での講座の際、通訳として頼まれたこともあり、手話に関心のある方は、矢板市社会福祉協議会(44-3000)が窓口ですので、お問い合わせください。
中学生以上の方が対象で、基本的に受講料は無料ですが、参考書代として1000円～2000円ぐらいかかる場合もあります。
(T・M&K・H)